

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 23 日現在

機関番号：17701
研究種目：基盤研究(B) (一般)
研究期間：2012～2016
課題番号：24390482
研究課題名(和文) 看護師に対する倫理サポートのアクションリサーチ

研究課題名(英文) Ethics support for nurses: an action research

研究代表者

小西 恵美子 (Konishi, Emiko)

鹿児島大学・医学部・客員研究員

研究者番号：70011054

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 7,200,000円

研究成果の概要(和文)：倫理サポートによる看護師の倫理的能力促進を目的に、第1部「倫理ワークショップ」では、看護部倫理委員会と連携し、日々の看護経験事例に潜む倫理的問題と倫理概念を探求した。この方式の倫理サポートは、「助言型サポート」よりも実践に親和したモラルスペースとなり、看護師をエンパワーするものであった。第2部「ツール開発と量的検証」では、倫理サポートの効果検証に有用な2つのツールを開発した：職場環境質問紙(WEQ)、及び道徳的感受性質問紙(MSQ)の日本語版。そしてこれら2つのツールを用いて、看護師の道徳的感受性に対する倫理ワークショップの効果と、道徳的感受性と職場環境との関連を評価した。

研究成果の概要(英文)：Ethics support is called for to promote nurses' ethical competency. In Part I of this study, we worked together with hospital nursing departments to invite nurses to case-study work-shops. On everyday nursing stories, nurses explored ethical problems residing in the story, shared similar experiences among nurses and learned relevant ethics concepts. In contrast to advice based forms, these experiential learning forms of ethics support provided a moral space for nurses and thus empowered them. In Part II, we firstly developed two questionnaires: a Work Environment Questionnaire (WEQ) and a Japanese Moral Sensitivity Questionnaire (J-MSQ). And then, by using these tools, we evaluated the effectiveness of our ethics support and assessed the correlation between nurses moral sensitivity and their work environment.

研究分野：看護学、看護倫理学、放射線防護学、放射線看護学

キーワード：看護倫理 倫理サポート 看護部倫理委員会 道徳的感受性質問紙 道徳的責任感 事例検討

1. 研究開始当初の背景

次の問題認識をもって本研究を開始した。

①看護実践は倫理と表裏一体であるが、看護師はこれに気付かず、倫理は抽象的で縁遠く、難しい学問と捉えられてきた。だが現実には、実践でモヤモヤした気持ちや無力感、疲弊感を抱く看護師が多い。看護師のそのような体験を受け止め、エンパワーする必要がある。

②看護師の倫理教育の目的は道徳的感受性を高め、良い看護を促進することにある¹。しかし現状では、自律、善行等の倫理原則を知識として教えることが主で、道徳的感受性の促進には必ずしもつながっていない。

③看護師の職場環境は道徳的感受性の育成に重要であることが文献上示唆されており、職場環境および道徳的感受性の評価ツールが必要である。

2. 研究の目的

倫理サポートによる看護師の倫理的能力を促進すること、実践現場で使いやすい職場環境と道徳的感受性に関するツールを開発し、倫理サポートの効果の評価を行うことを目的とした。

3. 研究の方法

(1)「倫理ワークショップ(以下、WS)」

各地の看護部倫理委員会と連携してWSを行い、日々の実践上の気がかりを看護師が記述した事例を用いて話し合い、潜在する倫理的問題を探求し、また類似経験を共有した。看護師のみのWS、他職種を交えたWSの2形態を実施した。研究者がファシリテータをつとめた。

(2)ツール開発と量的評価

倫理サポートの効果検証に有用と考えられる

以下のツールを開発した：職場環境質問紙(WEQ)、及び、日本語版道徳的感受性質問紙(J-MSQ)。

① WEQ:まず、文献から次の8領域を抽出した：職場の人間関係、患者・家族との関わり、職場の上下関係、決定事項の職場内風通し、見習いたい同僚/先輩の存在、仕事の負担、仕事への誇り、及び、仕事の喜び。次に、各領域について質問項目を作成し、看護研究者と実践者のプレテストを経て、最終的に全20項目の質問紙(WEQ)とした。これを看護師146名に回答してもらい、因子分析によって3つの構成概念を特定した：チームワーク($\alpha=0.876$)、難しいケア状況(0.786)、やり甲斐(0.660)。

② J-MSQ:最初に、Lütznらによる9項目の道徳的感受性質問紙(MSQ)²を邦訳し、看護研究者・実践者のプレテストを経てJ-MSQ2012を作成した。これを看護師141名に回答してもらい、因子分析により3つの構成概念を特定した：道徳的強さ(MS, $\alpha=0.798$)、道徳的気づき(SMB, $\alpha=0.622$)、道徳的責任感(MR, $\alpha=0.144$)。次いで、信頼性係数 α が低かったMRに係る質問項目を見直し、日本の看護実践をよりよく反映すると考えられる項目との入れ替えを行ってJ-MSQ2012を改訂、J-MSQ2017を作成した。

4. 研究成果

(1)倫理ワークショップ(WS)

国内各地の延べ148機関でWSを実施した。

① WSの質的評価:倫理を身近に感じた、安心して話しあえた、悩みが晴れた、救われた等のポジティブな感想を得た。看護師は自身の実践を低く評価しがちなことから、WSではじめて看護師の存在の重要性に気付く者もあり、WSは、看護師が自分たちの強みに気づき、自

信をもち、エンパワーのできるモラルスペースとしても重要であることを確認した。チーム医療が進む現在、倫理問題はチームで対処する方向であるが、看護師は他職種に比べて発言力が弱いいため、チームの結論に取り残され、釈然としない気持ちを抱くことがしばしばある。そのような状況の看護師をエンパワーし、発言力を高める倫理サポートが重要と考えられた。

② WS の量的評価：次の第 2 部で述べる。

(2) 量的評価

① J-MSQ2012 による WS の効果：看護師 194 名に対して行った WS の前後に、J-MSQ2012 を回答してもらった。各項目の WS 前後の平均得点 (M1, M2) を表 1 に示す (表では WS を研修と表現。各項目の満点は 6)。

表 1. WS 前後の MSQ 各項目の平均得点 (N=194)

質問項目	研修前		研修後		p
	M1	SD1	M2	SD2	
1 たまたまにたまたまでも患者にはよいケアを行う責任があると、私はいつも思っている	5.04	0.95	5.10	1.03	0.230
2 私は患者の思いをキャッチしてよく気づけるほうなので、それがいつも自分の仕事に役立っている	3.66	0.92	3.71	1.05	0.357
3 私はその場の様子から、難しいことや話しにくいことを患者にどう言った方がいいかをとてもよく感じ取れる	3.63	1.00	3.65	1.02	0.727
4 患者の思いに気づくことは、もっとそれ以上のことをしていくゆえに思う	4.91	1.04	5.21	0.99	0.000
5 患者がよいケアを受けていないと気づく能力が、私はとても高いと思う	3.46	1.00	3.68	1.05	0.000
6 患者が苦しんでいるとき、自分の感情をコントロールするのがとても難しく感じる	3.59	1.20	3.74	1.18	0.031
7 患者をケアするとき、患者によいことをもたらすことと、害を与える可能性とのバランスを私はいつも考えている	4.04	1.02	4.15	0.97	0.095
8 患者の思いに気づけることは、患者をとりまく状況の不足分に気づくことでもあると、よく思う	4.48	1.02	4.76	1.01	0.000
9 患者にとって良い/良くないを判断する時は、倫理原則や経験の良まり等を考慮することが大事だと思う	3.68	1.19	3.57	1.36	0.244

WS 実施後の平均得点は、項目 9 を除く全項目で実施前よりも高かった。有意差は 4 項目で認められた (項目 4, 5, 6, 8)。ここから、我々の WS により道徳的感受性が高まったことが示唆された。

② 職場環境と道徳的感受性との関連：前項の看護師 194 名に J-MSQ2012 についても同時に回答してもらい、職場環境と道徳的感受性との関連をみた。表 2 に、各質問紙の構成概念間のピアソンの相関係数を示す。表 2 から、

「道徳的強さ」と「難しいケア状況」との間に有意な負の相関が認められ、道徳的強さの高い看護師ほど、難しいケア状況によりよく対処できることが示唆された。また、「道徳的強さ」と「やり甲斐」とに有意な正の相関があり、やりがいの感じられる職場環境は看護師の道徳的強さを育むことが示唆された。さらに、「道徳的気づき」と、「やりがい」とに正の相関が認められ、やりがいの感じられる職場は看護師の道徳的な気づきを高めることが示唆された。

表 2. 道徳的感受性と職場環境との関連 (MSQ2012 と WEQ による。N=194)

	道徳的強さ	道徳的気づき	道徳的責任感	チームワーク	難しいケア状況	やり甲斐
道徳的強さ	1	-.050	-.037	.119	-.279**	.384**
道徳的気づき	-.050	1	-.029	.159	.149	.276**
道徳的責任感	-.037	-.029	1	-.124	.010	-.133
チームワーク	.119	.159	-.124	1	-.013	-.030
難しいケア状況	-.279**	.149	.010	-.013	1	-.025
やり甲斐	.384**	.276**	-.133	-.030	-.025	1

③ J-MSQ2012 から J-MSQ2017 へ

改訂された J-MSQ2017 を看護師 2016 名に回答してもらった。統計解析の結果、信頼性係数は MR で 0.74、全体で 0.82 となり、J-MSQ2012 (MR で 0.14、全体で 0.53) に比べて向上した。

<引用文献>

- ① A. J. Davis et al / 小西恵美子監訳. 看護倫理を教える・学ぶ. 日本看護協会出版会、2008.
- ② Lutzen K. et al. Developing the Concept of Moral Sensitivity in Health Care Practice. Nursing Ethics 2006:13 (2), 187-196.

5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計 23 件)

- ① Christine Mitchell, 小西恵美子・宮内信治(訳). 倫理的な看護実践が試される時. 日本看護倫理学会誌. 9(1), 67-87, 2017, 査読無
- ② 八代利香 (全 2 名中 2 番目). 医師が医療職および患者・家族との関係において直面する倫理的ジレンマ. 日本看護倫理学会誌, 9(1), 61-63, 2017, 査読有.
- ③ 八尋道子 (全 7 名中 3 番目)、小西恵美子 (4 番目). 看護研究の倫理審査に関する考察: アメリカ合衆国の事例を踏まえて. 日本看護科学学会誌 36, 80-84, 2016, 査読有.
- ④ KONISHI E. (全 7 名 1 番目). Post-Fukushima radiation education for public health nursing students: a case study. Int Nurs Review 63(2) 292-299, 2016, 査読有.
- ⑤ 鈴木真理子 (全 5 名中 2 番目)、八尋道子 (3 番目)、前田樹海 (4 番目)、小西恵美子 (5 番目). 臨地実習におけるハビネスの促進: 3 つのエピソードが示すもの. 日本看護倫理学会誌. 7(1) 89-91, 2015, 査読有.
- ⑥ 小西恵美子 (全 2 名中 1 番目). 看護部倫理委員会のディスカッション: 日本とアメリカの状況. 日本看護倫理学会誌 6, 75-77, 2014 査読有.
- ⑦ 小西恵美子 (全 4 名中 1 番目)、前田樹海 (2 番目)、八尋道子 (3 番目)、看護部倫理委員会: 日本流の進展への課題と期待. 日本看護倫理学会誌 6, 78-80, 2014, 査読有.
- ⑧ 小西恵美子 (全 5 名中の 1 番目). ケーススタディー: 倫理的意思決定の枠組みを使わないアプローチと対話, 日本看護倫理学会誌 5, 28-33, 2013. 査読有.
- ⑨ 前田樹海 (全 6 名中 2 番目)、小西恵美子 (3 番目). 本物の共著者は誰だ?: 著者資格 (authorship) の倫理. 日本看護倫理学会誌 5, 47-51, 2013, 査読有.
- ⑩ 小西恵美子. 倫理は形ではない: 枠組みに囚われない倫理的思考のすすめ. 看護展望 38(6), 4-13, 2013, 査読無.
- ⑪ 前田樹海. わが国の看護研究における倫理審査委員会の形式性. 看護展望 38(6), 14-18, 2013, 査読無.
- ⑫ 八尋道子. 倫理が人をエンパワーする理由. 看護展望 38(6), 19-26, 2013. 査読無.
- ⑬ 鈴木真理子. 看護倫理と看護の言語化: 看護を「語ること」「書くこと」. 看護展

望 38(6), 27-33, 2013, 査読無.

- ⑭ 小西恵美子. 倫理は看護の要: よい看護、よい看護師の道しるべ. ベストナース 4, 16-19, 2013, 査読無.
- ⑮ 小西恵美子. 看護倫理の視点で議論された日本の原子力災害: 第 14 回国際看護倫理センター年次大会に参加して、医学界新聞第 3044 号, p. 5, 2013, 査読無.
- ⑯ 小西恵美子 (全 3 名中 2 番目)、倫理という視点から議論された福島第一原子力発電所事故. 日本看護倫理学会誌 5, 76-78, 2013, 査読有.
- ⑰ Emiko Konishi (全 7 名中 7 番目). 2013, Ethical issues in practice: A survey of home-visiting nurses in Japan, Japan J of Nurs Sci 10, 98-108, (2013), 査読有.
- ⑱ 小西恵美子 (全 2 名中 2 番目)、改訂道徳的感受性質問紙日本語版 (J-MSQ) の開発と検証: 第 1 報. 日本看護倫理学会誌 4, 32-37, 2012, 査読有.
- ⑲ 鈴木真理子 (全 8 名中の 2 番目)、小西恵美子 (8 番目)、看護学生の職業倫理の涵養にロールモデルは有効か: 学生の捉えるロールモデルから. 日本看護倫理学会誌, 4(1), 3-8, 2012, 査読有.
- ⑳ 足立 智孝. 看護と倫理. 精神科看護 39. 6-14, 2012, 査読無.
- ㉑ 足立 智孝. エンハンスメント問題の人間学的一考察. モラロジー研究 69, 109-126, 2012. 査読有

[学会発表] (計 22 件)

- ① 小西恵美子. 日々の実践に注ぐ倫理の眼 (教育講演). 日本看護倫理学会第 10 回年次大会. 2017 年 5 月 21 日、ホルトホール大分 (大分県大分市)
- ② Jukai Maeda, Emiko Konishi, Michiko Yahiro, et al. Development of Japanese version of Moral Sensitivity Questionnaire. 20th EAFONS, 2017 年 3 月 10 日, 香港 (中華人民共和国).
- ③ 前田樹海. (2016). 教育と研究の相克: 手段の目的化ないしはルール化. 日本看護倫理学会第 9 回年次大会. 2016 年 5 月 22 日, 京都テルサ (京都府京都市).
- ④ Emiko Konishi. International perspectives on ethics in care and nursing: Japan (招待講演). 1st Int Care Ethics Observatory Conf, July 17-18. 2015, Guildford (英国)
- ⑤ 小西恵美子. Authorship の重要性と倫理、第 6 回 JANS セミナー「責任ある研究行為」、2015-6-21. AP 東京, (東京都中央区).
- ⑥ Emiko Konishi, (全 11 名中の 1 番目).

Multidisciplinary approach to promote a practical radiation culture in Fukushima, Japan. 18th EAFONS, Feb 6. 2015, Taipei (台湾).

- ⑦ 足立智孝(全4名中の4番目). 医療における意思決定支援を考える:医療者自身の意思決定のワークショップを通じて. 第19回日本緩和医療学会学術大会. 2014年6月20日, 国際展示場(兵庫県神戸市).
- ⑧ 小西恵美子、山下早苗. 看護師の優しさと倫理的責務. 2014年5月24-25日. 日本看護倫理学会第7回年次大会, ウィンク愛知(愛知県名古屋市)
- ⑨ 鈴木真理子(全7名中3番目)、八尋道子(4番目)、山下早苗(5番目)、前田樹海(6番目)、小西恵美子(7番目). 臨地実習は辛い? 楽しい?: みんなが happy になる実習は存在するのか, 日本看護倫理学会第7回年次大会, 2014年5月24-25日, ウィンク愛知(愛知県名古屋市)
- ⑩ Toshitaka Adachi. The Narrative Approach to Ethics Education for Nursing Students: An Example from Japan. 2nd Int Conf on Education in Ethics, Ankara(トルコ), May 22, 2014.
- ⑪ 前田樹海、小西恵美子、八尋道子. 看護倫理研修会によって道徳的感受性は変化するのか. 日本看護倫理学会第6回年次大会, 2013-6-9, 鹿児島市民会館(鹿児島県鹿児島市)
- ⑫ 小西恵美子、前田樹海、坂本明子、八尋道子. アン先生と語ろう看護部倫理委員会. 日本看護倫理学会第6回年次大会, 鹿児島市民会館(鹿児島県鹿児島市) 2013-6-8.
- ⑬ Emiko Konishi. Nurses' responsibilities in radiation emergency. 14th Annual Conference of the

ICNE, Melbourne(オーストラリア), May 18, 2013.

- ⑭ 足立智孝. 生命倫理学におけるヒューマニティーズの位置づけ. 日本医学哲学倫理学会, 2012年11月17日, 金沢大学(石川県金沢市).
- ⑮ 小西恵美子、前田樹海. 職場環境は看護師の道徳的感受性を高めるか. 日本看護倫理学会第5回年次大会. 2012年5月27日, 東京女子医科大学(東京都新宿区).
- ⑯ 鈴木真理子、小西恵美子. 事例検討方法に関する一考察:問題解決の枠組みを使わない事例検討を試みて. 日本看護倫理学会第5回年次大会. 2012年5月27日, 東京女子医科大学(東京都新宿区).
- ⑰ 足立智孝. 倫理的意思決定のためのナラティブアプローチ(教育講演). 日本看護倫理学会第5回年次大会, 2012年5月27日, 東京女子医科大学(東京都新宿区).

[図書](計9件)

- ① 小西恵美子. 看護実践と倫理. In:高橋照子(編). 看護学言論:看護の本質理解と創造性を育むために 改訂第2版. 2016. 南江堂. p.107-118. (全253頁).
- ② 征矢野あや子、小西恵美子. ウェルネスアプローチ. In:正木春恵、真田弘美(編). 老年看護学概論:「老いを生きる」を支えることは. 2016. 南江堂.p.138-140. (全397頁).
- ③ 前田樹海. (2016). ツイッターで看護学生が解剖画像をアップし、退学となった事例を元に、医療者の倫理教育を考えてみよう. In 浅井篤, 大北全俊(編), 少子超高齢社会の「幸福」と「正義」:倫理的に考える「医療の論点」、日本看護協会出版会. p.6-72. (全212頁).
- ④ 前田樹海. (2016). 臨床ナースから看護研究者まで 研究発表のプレゼンもっとよくなります!. 日本看護協会出版会. (全125頁).
- ⑤ 小西恵美子編. よい看護・よい看護師への道しるべ 改訂第2版, 2014. 南江堂. (全260頁).
- ⑥ 足立智孝. ナラティブを用いた倫理教育

アプローチ. In: 清水哲郎監. 看護倫理実践事例 46. 2014. 日総研. p. 160-170(全446頁).

- ⑦ Toshitaka Adachi. Bioethics Education in Japan: Ethics Education for Medical and Nursing Students. Bioethics Education in a Global Perspective Ed. Henk ten Have (New York: Springer, 2014, 74-96. (total 221pages) .

[その他] (1件)

小西恵美子. 保健師スピリッツと実践活動.
<http://tokuteikenshin-hokensidou.jp/info/040/011/no5.php>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小西 恵美子 (KONISHI Emiko)
鹿児島大学・医学部・客員研究員
研究者番号: 70011054

(2) 研究分担者

鈴木 真理子 (SUZUKI Mariko)
佐久大学・看護学部・講師
研究者番号: 10281255

八尋 道子 (YAHIRO Michiko)
佐久大学・看護学部・教授
研究者番号: 10326100

前田 樹海 (MAEDA Jukai)
東京有明医療大学・看護学部・教授
研究者番号: 80291574

八代 利香 (YATSUSHIRO Rika)
鹿児島大学・医歯学域医学系・教授
研究者番号: 50305851

山下 早苗 (YAMASHITA Sanae)
防衛大学校・医学教育部看護学科・教授
研究者番号: 40382444

足立 智孝 (ADACHI Toshitaka)

亀田医療大学・看護学部・教授

研究者番号: 70458636

楠元裕佳 (KUSUMOTO Yuka)

鹿児島大学・医歯学域医学系・助教

研究者番号: 10347106